

第6学年2組

国語科学習指導案

平成28年11月〇〇日(〇)

6年2組教室 在籍児童数36名

指導者 教諭 中村 ひとみ

1 単元名 未来の豊野小学校も「超一流」に！～わたしが校長先生になったら…～

教材名 未来がよりよくあるために

2 児童の実態と本単元の意図

児童の実態

本学級の児童は、これまでに、「学級討論会をしよう(第6学年)」で、一つの問題について多角的に考えたり、自分の立場を明確にしながら、より多くの人が納得できる解決策を考えたりする学習を行ってきた。学級討論会の「討論を聞く」グループを経験した際には、様々な意見を踏まえて自分の考えを深め、よりよい考えを導き出すことを難しいと感じる児童が多かった。自分の意見を大事にしながらも、互いの意見を聞き合うことで考えを深めていく経験をもっと積み重ね、他者と関わり合いながら自分の意見を整理したり深めたりすることのできる力をもっと高めていきたい。

つきたい力

- ・積極的に質問や助言をし合い、話し合いを通して自分の考えを深めようとする力
- ・他者との関わりを通して深めた自分の考えを、構成を工夫した意見文にまとめる力
- ・資料を意味付けて、自分の考えの根拠として用いる力

教材の特徴

本教材「未来がよりよくあるために」は、「未来について自分の考えをもつ。」→「話し合いを通して自分の考えを深める。」→「構成を工夫して自分の考えを伝える意見文を書く。」という流れで組み立てられている。話し合いは、自分の考えを深めるために設けられており、他者と関わりながら、自分の考えをよりよくする力を高めることができる教材であるといえる。説得力のある意見文の構成を学んだり、友達の意見文の説得性を評価したりする学習としても効果的である。

自分の考えを深め主体的な学びを展開するための指導の工夫

未来の豊野小学校をよりよくするために、校長先生の立場になって大切にしたいことや新たな方策を考えていく。実際に校長先生と意見交換会を行うことで、学校に対する見方や考え方を広げ、自分の普段の生活や学校のためにできることを深く考えることができるようにする。アンケート調査や資料を活用して、説得力のある意見文を書くことができるように、あらかじめ活用できそうな校内資料を集めたり、地域の方のボランティア活動などを調査しておいたりし、どの子も資料が集められるよう準備しておきたい。

本単元で目指す児童の姿

○積極的に質問したり自分の考えと比べながら聞いたりして、よりよい学校について考えを詳しくもち、根拠を提示して双括型の意見文にまとめることができる。

3 研究テーマ

他者と関わりながら自分の課題を追求し、言葉に対する見方・考え方¹を広げる学び

新しい時代に求められる資質・能力を育成するために、アクティブ・ラーニングの視点から、「主体的・対話的・深い学び」の実現を目指し、以下のような授業改善を行う。²

★1 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」の実現

- ・児童の発達段階や環境に適した題材で単元を展開する。（豊野小の未来も「超一流」に）
- ・学習前後の変容を実感できるように記録しておき、比較する。（最初の意見文、話し合い活動）
- ・学級共通の課題と個人の課題を設定し、一人一人の学びを大事にする。

★2 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」の実現

- ・様々な他者（テキスト、友達、校長）と話し合う機会を設け、自分の考えを深める。
- ・話し合いの役割や効果を実感させ、対話のよさが味わえるようにする。

★3 各教科等で習得した概念や考え方を活用した「見方・考え方」を働かせ、問いを見いだして解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想、創造したりすることに向かう「深い学び」の実現

- ・複数の資料を取捨選択し、意味付ける活動を通して、自分の見方・考え方を広げられるようにする。（自分の意見の根拠を複数用意）
- ・友達の意見や集めた資料のどの部分から自分の考えが形成されたのか、見つめ直したり考えたりする機会を設け、自分の考えを深める。

4 単元の目標

- （1）未来の豊野小をよりよくするために、どのようなことをすればよいのか、他者の意見を聞いて考えたり自分の考えを書いたりしようとしている。

〈関心・意欲・態度〉

- （2）立場や考え方をはっきりとさせながら、質問や助言を入れて話し合うことができる。

〈話すこと・聞くこと〉

- （3）話し合いで深めた自分の考えを伝えるために、根拠となる資料を提示して、構成を工夫した文章を書くことができる。

〈書くこと〉

- （4）話し言葉と書き言葉の違いに気を付けながら意見文を書くことができる。

〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する指導事項〉

¹ 教育課程部会国語ワーキンググループによると、「言葉による見方・考え方」とは、「自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味付けること」と定義している。

「国語ワーキンググループにおける取りまとめ」

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/068/sonota/_icsFiles/afieldfile/2016/09/12/1377097.pdf（最終閲覧日 2016/11/13）

² 同上 pp17-18

5 単元の評価規準と学習活動に即した評価規準

	ア 国語への関心・意欲・態度	イ 話す・聞く能力	ウ 書く能力	オ 言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	・豊野小のよりよい未来について、友だちの意見を聞いて考えようとしている。 ・自分の考えが伝わるように意見文にまとめようとしている。	・自分の立場や考えについて、理由を明確にして述べるとともに、質問や助言を入れて話し合っている。	・構成を工夫して自分の考えを伝える意見文を書いている。 ・根拠となる資料を提示して、説得力のある文章を書いている。	・自分の考えが伝わるように言葉や表現を工夫して話したり書いたりしている。 ・話し言葉と書き言葉の違いを意識して意見文を書いている。
学習活動に即した評価規準	①豊野小のよりよい未来について考えたことをシートに書いたり話し合ったりしようとしている。 ②自分の考えが伝わるように、効果的に書き表そうとしている。 ③学習を通して学んだことを振り返り、学習前後の変容を考えようとしている。	①自分の意見とその理由を明確に話し、相手と比べて考えをまとめたり、話し手の意図が、より伝わるように、助言、質問をしたりしている。	①関係する情報を集めて自分の考えを明らかにしたり、根拠や事例を集めたりしている。 ②双括型で自分と異なる意見を取り入れながら、構成を工夫して書いている。 ③自分の考えの根拠になる資料を複数提示して、意見が説得力をもつように書いている。	①自分の考えがよく伝わるように、言葉を選んだり表現を工夫したりしている。 ②話し言葉と書き言葉の違いを意識しながら、常体で意見文を書いている。

6 指導と評価の計画（全13時間）

時	主な学習活動	学習内容	評価規準・評価方法
第1次 身に付けたい力に関する既有知識を想起し、学習の見通しをもつ。			
1 2	○豊野小のよいところについて話し合い、豊野小の未来について考える。（★1） ○「平和のとりでを築く」を読み、未来に向けて大切にしていきたいことを文章にまとめる。（★1）	○学校のよいところについての想起 ○未来についての考え ○過去→現在→未来	ア① ・発表の様子や態度の観察 ・ノートの記事内容の考察
3	○学習課題「未来の豊野小も『超一流』に！～私が校長先生になったら～」を確認し、個人の課題を設定して学習計画を立てる。（★1）	○単元の見通し、課題設定 ○意見文の内容 ○相手意識…友だち、校長目的意識…未来の豊野小のために、大事にしたいことや新たな取組を提案	ア① イ① ・発表の様子や態度の観察 ・ノートの記事内容の考察

第2次 他者との対話を中心に自分の考えを再構築する。			
4 5	○自分の考えの根拠となる情報を集める。(★3)	○根拠が複数あると説得力が増すということ ○資料の集め方	ウ① ・取材に対する取組の観察
6	○校長先生や友達と意見交換会をする計画を立て、話合いの仕方を確認する。(★2)	○考えの深め方 ○話合いの仕方 ・質問に関する言葉 ・聞く際の思考 ・助言、メモ	イ① ・話合い練習の様子 の観察 ・ノートの記述内容 の考察
7 8	○校長先生や友達と意見交流会を行う。(★2)	○立場による見方・考え方の違い ○話合いの実践	ア① イ① オ① ・話合いの様子の観察 ・整理シートの記述 内容の考察
9	○意見文の組み立てを考える。(★3)	○双括型 ①意見②根拠となる情報 ③予想される反論・答え④ 意見・まとめ(情報収集)	ア② ウ② ・意見文シートの考 察 ・取組の観察
10 11	○意見文を書く。(★1)	○常体 ○推敲(内容・構成・言葉)	ア② ウ③オ①② ・意見文の考察
第3次 身に付けた力を活用し、再構成した自分の考え方を学習前と比較して見つめ直す。			
12	○豊野小の未来を語りましょう DAY(名称は児童と決定)に、意見文の発表(豊野っ子の主張)を行い、第2回意見交換会を行う。(★1)	○交流の仕方 ・事例の分かりやすさ ・説得性の評価 ○話合いの仕方 「変化した自分に気付く」	ア① イ① オ① ・発表内容の考察 ・話合いの様子の観 察 ・ノートの記述内容
13	○第2時の自分の考えと意見文を比較し、学習について振り返る。(★1)	○振り返り ・学習前後の変容 ・身に付いた力の確認 ・生活への活用法(観点)	ア③ ・ノートの記述内容 の考察 ・発表の様子や態度 の観察

7 本時の学習指導(本時7・8/13時)

(1) 目標

○校長先生や友達と意見を聞き合って自分と友達の考えを深めることができる。

(2) 評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 話す・聞く能力	オ 言語についての知識・理解・技能
豊野小のよりよい未来について考えたことをシートに書いたり話し合ったりしようとしている。	自分の意見とその理由を明確に話し、相手と比べて考えをまとめたり、話し手の意図が、より伝わるように、助言、質問をしたりしている。	自分の考えがよく伝わるように、言葉を選んだり表現を工夫したりしている。

(3) 展開

★Aグループ…第7校時（校長と意見交流）→第8校時（友達と意見交流）

Bグループ…第7校時（友達と意見交流）→第8校時（校長と意見交流）

学習活動	学習内容	指導と評価の創意工夫	時間
1 前時で出てきた話合いの課題を確認し、本時の学習課題をつかむ。	○学習課題の把握 ○学習の見通し	・話合いの手引きを国語コーナーに掲示しておき、本時の学習課題につなげるようにする。	6
意見を聞き合って、自分と友達の考えを深めよう			
2 グループで意見交流を行い、自分の考えを整理する。	○考えを深める話合い方 ・話し手…自分の考えの理由、質問や反論に対する自分の考えが言えること ・聞き手…役割を意識して聞き、話し手から新しい言葉を引き出すこと ○意見交流の仕方 ・話し手…大事にしたいこと→根拠→自分の意見 ・聞き手…「お願い」「質問」「確認」 ○異なる見方・考え方 ・同じ意見…理由の違い ・違う意見…似ているところ ・校長の意見…立場による見方・考え方の違い	・考えを深めるために意識することを確認する。 ・「交流の手引き」を適宜活用し、自分たちで活発に話合いをすることを確認する。 ・役割カードを用意し、「お願い」「質問」「確認」の役割を分担して聞くことができるようにしておく。(グループの状況により活用しなくてもよい。) 評価場面 〈評価規準〉ア①イ①オ① ・話合いの様子や態度の観察 ・メモの記述内容の考察 〈手立て〉 ・十分に話し合えている児童（グループ）には、シートに自分の考えを整理したり聞き手の役割分担をなくして話し合ったりするよう助言する。 ・話合いがうまく進まない児童（グループ）には、交流の手引きや役割カードを参考に話し合うように助言する。	7 2
★校長と意見交流 同質グループ6人で校長と意見交流する。12分 A質問の作成 B校長との意見交流 C交流内容の整理			
★友達と意見交流 異質グループ3、4人で話し合う。意見を深めるため、特に聞き手の役割を意識して、話合いの力を高める。 6分×4回→自分の意見を整理			

3 意見交流を踏まえて自分の考えを整理する。	○考えの整理 ・なるほどと思った友達の意見 ・答えられなかった質問 ・変化した自分の考え・理由	・整理シートに記入する際、答えられなかった質問や鋭い意見を記録しておくことが、説得力のある意見文を書くことにつながることを伝える。 ・机間指導しながら、考えが深まっているところを具体的に褒め、学びを実感できるようにする。	7
4 本時の学習を振り返り、次時の課題を確認する。	○振り返りの観点 ・学んだこと (話合いの仕方、友達の様子など) ・自分の考えの変容 ・次時の課題 ・生活に生かせそうな点 ○次時の見通し	・本時の学習課題に対する振り返りの観点を明確にし、学習前後の自分の変化に気づきやすくする。 ・学習計画表を見て次時の学習を確認し、単元の見通しをもたせるようにする。	5